

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 たんぽぽ)

事業所番号	0670101161		
法人名	医療法人 東北医療福祉会		
事業所名	フラワー小姓町		
所在地	山形県山形市小姓町7番15号		
自己評価作成日	平成26年 10月 30日	開設年月日	平成 14年 7月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりの個性や能力を尊重し、またそれが維持出来る様な関わりを大事にし、一人ひとりが自由に自分のペースで過ごせる様支援して行きたいと思えます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	行政書士協同組合 オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成26年 11月 26日	評価結果決定日	平成 26年 12月 10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳や権利・個性を尊重するように、ホーム独自の理念を事務所に掲示、ユニットでも常に確認出来るよう掲示し、また、毎朝朝礼時に唱和し取り組んでいる。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と一緒に近所を散歩し挨拶したり、ホームに食材を近所の店から配達して頂いた時は利用者に挨拶して下さったりしている。地区の行事にも参加する様にしている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生、近隣の方々のボランティアを受け入れ、又、いつでも受け入れ可能にしておき、認知症の方と、触れ合い理解して頂ける様支援している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。現場のスタッフも同席し、活動状況等を報告し、地域の方のご意見を取り入れ、ケアサービスに活かせるよう努めている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、介護相談員の来訪があり、サービスの向上の為意見交換を行っている。生活保受給者や、身寄りのない利用者様に関しては生活福祉課・長寿社会課の担当者への報告や相談を密に行っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は中央玄関、ユニットの出入りに施錠はせず、見守りや声掛けをし、スタッフが利用者様の要望、行動に合わせ自由に出入り出来る様にしている。研修にも参加し、日々のケアに生かせる様工夫して取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	随時、虐待等の研修に参加する機会を持ち、スタッフ同士情報を交換している。毎日の関わりの中で、どのような事が虐待になるのかを啓発しあい、防止に努め、未然に防げる様に徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護等の資料等配布しているが、理解不足な所がある為、研修会や勉強会を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり説明を行うようにしている。利用料金や緊急時の協力要請、契約解除等について、詳しく説明し、同意を得ている。利用者・家族にとって、サービス開始後、具体的な場面に遭遇しないとわからないこともある為、必要時や家族会総会などで都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の利用者様との関わりの中から希望や意見を聞き取り、又面会に来られたご家族様からの要望、意見を伺い、ケアサービスに活かせるようにしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット毎に毎月ユニット会議を開催し、スタッフ間で話し合った意見を聞き、活かすように努めている。又、それ以外でも日頃よりユニット長が意見を集約して、管理者に相談及び提案を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や日々の会話の中で、スタッフの希望等を聞き、活かすようにしている。又、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を推奨し、各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や県のグループホーム協議会主催の研修や交換研修に参加し、他事業所の方とも意見交換を行う機会を設けたり、ユニット会議等に研修の内容や情報などを共有出来る様にしている。スタッフが求めている事や力量を把握し、個別に指導を行ったり、勉強会の機会を設けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会主催の研修会や交換研修等に参加し意見交換を図り、サービス向上に繋がられるよう努めている。また、グループ内の事業所全体で事例検討会を行い、グループ内の職員全体の意識やサービスの質の向上を図っている。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時の情報や要望等を参考にして、サービス計画書を作成し、スタッフが情報を共有した上で実践して行く様になっている。また、利用者様のペースを守り、新たな気づきを重ねながら、信頼関係を築ける様努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時、後家族様から不安や要望を伺い来所された際も傾聴しスタッフ間でも共有している。又ご本人様の様子をお話し、安心して頂ける様に対応している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様からよく話を伺い何を必要としているのか(希望、伝えたいこと)を見極め、相手の立場に立ち対応するよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の出来る事を把握し、日々の生活の中で活かせる様にし、スタッフも一緒に活動し、家庭の様な関係を築けるようにし、支援している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回のお便りや、電話連絡の際には、利用者様の様子をお伝えし安心して頂いたり、時には相談しヒントを頂いたりし協力して、利用者様を支えて行く様になっている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様からの要望にて、外食・買い物や馴染みの理容室、墓参り等々と可能な限り対応している。家族・友人等との外出・面会も可能な限り支援し馴染みの関係を継続出来るよう対応している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カルタ取りやババ抜き等ゲームを提案し行い楽しめる様にしている。又、利用者様同士で、食器拭きや布巾畳み等行って頂き、スタッフは一緒に行うべく行く様に支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もご家族様から近況を伺うことはあるが、本人と対面しての支援は、現状ほとんど行っていない。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、希望・要望を十分に聴き、入居後に活かせるようにしている。その後もサービス計画の見直し時や、日々の関わりから一人ひとりの思いや、意向を把握するようにしている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に、ご本人様・ご家族様から、生活歴・生活環境・サービス利用の経緯といった情報を収集し、スタッフ間で共有し、入居後の生活に活かせるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らしの現状をを定期的に評価しており、また、常に日々の様子の変化に注意し気付けるようにし、スタッフ間で情報を共有し把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で感じた事・気づいた事等を、常に話し合い実行している。ご本人様やご家族様からの意見を含め、ユニット会議で意見交換し、それらを基に介護計画を作成し、常に統一したケアが出来るよう努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録には、ケアプランの項目に沿って記入し、日々のケアの中で変化等があれば、記録を基に評価し見直しをしている。連絡ノート等で、一人ひとりの情報をスタッフが共有出来るよう努めており、見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店より食品の配達をして頂いており、その時声を掛けて下さっている。小学校の行事や、地域の神社のお祭りに行ったりし地域の方々との交流を大事に、地域との関わりが出来る様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診は、ご本人様とご家族様の希望を伺い、入居前のかかりつけ医院や、ホームの往診に来て下さる医院から適切な医療を受けられる様支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日中、看護職員を配置し、介護職員と情報交換し、利用者様の体調管理を行っている。体調変化・急変があった時には、常に相談・指示を仰ぎ、対応できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、面会やご家族様との連絡等を行い経過観察し、早期に退院出来るよう病院関係者から情報を伺ったり、相談している。一か月以上の入院治療が必要な際にも、医療関係とご家族様と密に連携をとり支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に、重度化した場合や看取りに関して、又事業所で出来る事を説明し、ご家族の同意をもらっている。状態の変化がある場合は、医療関係者との相談・連携等を図り、ご本人様やご家族様の意向を尊重し、支援するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは常備しており、講習も毎年行っているが、実践力が充分身に付いているとは言えない。実践力を身に付けることが課題と思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。また地震対策マニュアルも準備されておりスタッフ全員周知しているが、入職して短いスタッフが多い為身に付くまでは至っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様ひとり一人の個性を尊重し、集団生活のなかでも、個々に合わせた声掛けをし、プライバシーを大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で傾聴することを大切にし、一人ひとりの希望を伺ったり、くみ取り、自分で決められる様に声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の現状に合わせ、個性を大切に、一人ひとりの時間を大切に支援している。個人の希望に沿って生活出来る様支援し、自由に生活出来る様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを選ぶ際は、出来る限り利用者様と一緒に選んで好みを大切にし、季節に合った服装をして頂ける様、又爪切り、髭剃り、床屋さんの依頼等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のADL等を把握し、スタッフと共に食事作り、食事の盛りつけ・食器拭き等の活動に参加して頂き、食事形態も、一人ひとりに合わせてお粥や刻み等を提供し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月一回体重測定を行い、増減に気を付けている。栄養バランスに注意し、食事量も一人ひとりに合わせて提供し、水分は充分取れる様に、定期的に提供、摂取して頂ける様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けや、誘導、仕上げ磨きを行い利用者様に応じて、義歯洗浄剤、マウスウォッシュ等も使用し清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉や声掛けのタイミングに気を付けトイレへの誘導・介助を行い、常に清潔で過ごせる様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給やバランスの良い食事を提供に努め、テレビ体操や散歩等で体を動かす機会を持つようにしている。利用者様の状態を把握し、医療機関とも連携し薬による排便の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの体調や気持ちに合わせて、ご希望に合わせた入浴が出来るようにしているが、施設の設備やスタッフの勤務体制等の関係上、日中に入浴介助を行っている為、完全に希望に沿えていない所もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のペースがあり、自由に居室に戻り馴染の布団で雑誌を見たり、ラジオを聞いたり、リビングのソファでゆっくり傾眠したりし過ごされ、夜間も見回りの事を話し、安心して頂ける様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様が確実に服薬出来るよう、服薬チェック表を活用し、服薬時には、名前・日付等の声だし確認と服用後の口腔内確認を徹底している。看護師と連携し薬の目的や副作用・用量等について把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る事を活かし、食事の手伝いをスタッフと共に行えるようにしている。ゲームをしたり、好きな飲み物を提供したり、好きなドラマを見て頂いたりし、楽しみ事や気分転換等の支援をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候に合わせ、散歩や買物同行等で、なるべく外出出来る様に支援しているが、慢性的なスタッフ不足により、一人ひとりのその日の希望に充分には対応出来ていない。ご家族様との外出は出来ている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様自身でお金を所有している方は外出や買い物同行時、必要な物を購入している。その他の利用者様は、事務所にお小遣いがある事を話し、いつでも使用出来る事を説明し対応している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望より、いつでも電話をすることが出来るよう対応している。手紙はないが、年賀状を出せる様対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雛祭り、こいのぼり、七夕等、季節感のある飾りを行い、居心地良く過ごせる様工夫している。外気との差を考え室温を管理し、通路も必要な物以外は置かない様にし、他の場所も明るくしたりと不快にならない様に工夫している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで仲の良い利用者様同士が並んで座って談笑されたり、コミュニケーションをとったり、又自席でもお隣同士でお話し出来る様対応している。能力のある方は自由に自分で居場所を作り思い思いに過ごせる様に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、又随時ご家族様より、使い慣れたもの・好みの物を置いてもらうようにし、ご本人様の希望にも合わせ対応している。入居後は、利用者様の意思を尊重しながら心身の状態の変化に合わせ、安全に穏やかに過ごせる様居室作りの支援をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差があるが、スロープを設置したり、目立つ様赤や黄のテープを貼ったりし工夫している。長い廊下には手すりを付け安全に歩ける様に、表札を大きめにし自分で居室に戻れる様に等安全に生活出来る様工夫している。		